

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成28年4月～令和3年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、平成28年4月以降、中心市街地活性化基本計画の「Re・Innovation 唐津～まちなか骨格軸の革新と歴史・文化のイノベーションによる、憧れの城下町・唐津～」というコンセプトのもと、「賑わいあふれる魅力ある商業の創出」、「訪れたい魅力ある観光の創出」の2つを活性化の目標に掲げて、43の事業を実施した。

計画の基本方針の1つ目に据えた「まちなか骨格軸の革新」においては、新天町パティオ街区再開発事業により、ホテル宿泊者や映画館の来場者など商店街の課題であった新たな客層の獲得をしたことにより、中心市街地の様相が徐々に変容するとともに、これまでになかった賑わいが創出された。様々な事業の展開により中心市街地のポテンシャルは上がっており、新たな交流人口の増加の可能性が期待できるようになった。

また、呉服町ファサード整備事業よって、統一された景観と安全な歩行環境が整備されたことを契機に、呉服町商店街が独自に五福の縁結び市というイベントを行うことで一定の集客効果が得られ、新しい事業を自主的に行おうという民間事業者の意識も高まっている。

基本方針の2つ目である「城下町唐津リノベーション」においては、各種観光施設の整備や、歴史あるまちなみの維持・保存のための事業を行い、中心市街地全体の回遊性を高め、訪れたい魅力を創出したことにより、新型コロナウイルス感染拡大以前の平成30年度において、観光施設入り込み客数が目標値を早くも上回る事となった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、前述の観光施設入り込み客数の最新値は、目標値の半数にも届かず、来街者満足度も令和2年度に大きく低下、空き店舗率についても、既に上昇へと転じているなど、幅広い課題に対応する必要性が生じている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成27年度 （計画前年度）	平成28年度 （1年目）	平成29年度 （2年目）	平成30年度 （3年目）	令和元年度 （4年目）	令和2年度 （5年目）
人口	8,005人	8,077人	8,029人	7,930人	7,805人	7,726人
人口増減数	9人	72人	▲48人	▲99人	▲125人	▲79人
自然増減数						
社会増減数				▲110人	▲45人	▲42人
転入者数				238人	210人	204人

中心市街地商業地平均地価	57,250 円/㎡	55,400 円/㎡	54,350 円/㎡	53,850 円/㎡	53,700 円/㎡	53,600 円/㎡
中心市街地住宅地平均地価	56,000 円/㎡	55,200 円/㎡	55,200 円/㎡	55,400 円/㎡	55,700 円/㎡	56,000 円/㎡

※社会増減数及び転入者数は、平成 30 年度から算出。

※中心市街地商業地平均地価は、国土交通省地価公示における標準地番号唐津 5-1 及び 5-2 の平均値から算出。中心市街地平均地価は国土交通省地価公示における標準地番号唐津-1 から算出。

## 2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

### 【進捗・完了状況】

- ① 概ね予定通り進捗・完了した      ② 予定通り進捗・完了しなかった

### 【活性化状況】

- ① 活性化した  
 ② 若干活性化した  
 ③ 計画策定時と変化なし  
 ④ 計画策定時より悪化

## 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた 43 の事業のうち、12 事業が完了、31 事業が実施中となっており、完了すべきハード整備事業は計画通りに進んでいることから、進捗・完了状況については「概ね予定通り進捗・完了した」とした。

一方で、基本計画において掲げた 3 つの目標指標は、令和元年度終了時点では達成できていた、あるいは目標値へ順調に近づいていたにもかかわらず、基本計画終了時点では目標値は達成できなかった。達成できなかった原因は断定できないが、新型コロナウイルス感染症の影響は少なからずあったものと考えられる。しかし、新型コロナウイルス感染拡大以前の傾向からすると、以前より活性化したと判断し、活性化状況については「② 若干活性化した」とした。また、基本計画終了後の令和 3 年度も継続中の空き店舗チャレンジ事業では、例年以上の相談・申請件数となっており、新型コロナウイルス感染拡大による影響もあり閉店した空き店舗への出店などの新たな動きが見られるため、今後のニーズの変化に柔軟に対応した事業の実施により、継続的に中心市街地の活性化を図っていく。

## 4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

### 【活性化状況】

- ① 活性化した  
 ② 若干活性化した  
 ③ 計画策定時と変化なし  
 ④ 計画策定時より悪化

### 【詳細を記載】

基本計画の終了を受けて、令和2年3月に中心市街地活性化協議会にてアンケート調査を実施した。アンケートの結果としては、協議会構成員の8割が基本計画の実施状況について、「評価できる」と答え、最も評価する事業としては「新天町パティオ街区再開発事業」、次に「呉服町ファサード事業」、「空き店舗チャレンジ事業」と続いた。今後必要な事業としては、上位3つの項目として「空きテナントの解消」、「魅力的なテナントの誘致」、「一体的な商業観光情報の発信」が挙げられた。基本計画の期間中、事業の地域の意見のとりまとめや合意形成に努めた結果、商店街の新規顧客の獲得、来街者数の増加、地元仕入れや事業委託による地域経済への貢献、雇用創出、人材育成等、一定の効果が得られた。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ① 活性化した
- ② 若干活性化した
- ③ 計画策定時と変化なし
- ④ 計画策定時より悪化

### 【詳細を記載】

中心市街地の活性化に関するアンケート調査を、計画初年度の平成28年度（第1回）と計画最終年度の令和2年度（第2回）に実施した結果を比較し、意識の変化を考察する。また、第2回調査においては中心市街地に対するイメージの調査を行った。

結果として、中心市街地のこの5年間での変化の兆候が表れ、中心市街地へのイメージは好意的なイメージが半数を超えていたことから、若干活性化したと判断した。

#### ◇第1回調査概要（平成28年度）

調査期間：平成28年5月27日（金）、平成28年6月5日（日）

調査方法：唐津中央商店街周辺10カ所にて来街者へのアンケート調査を実施

回答総数：250件

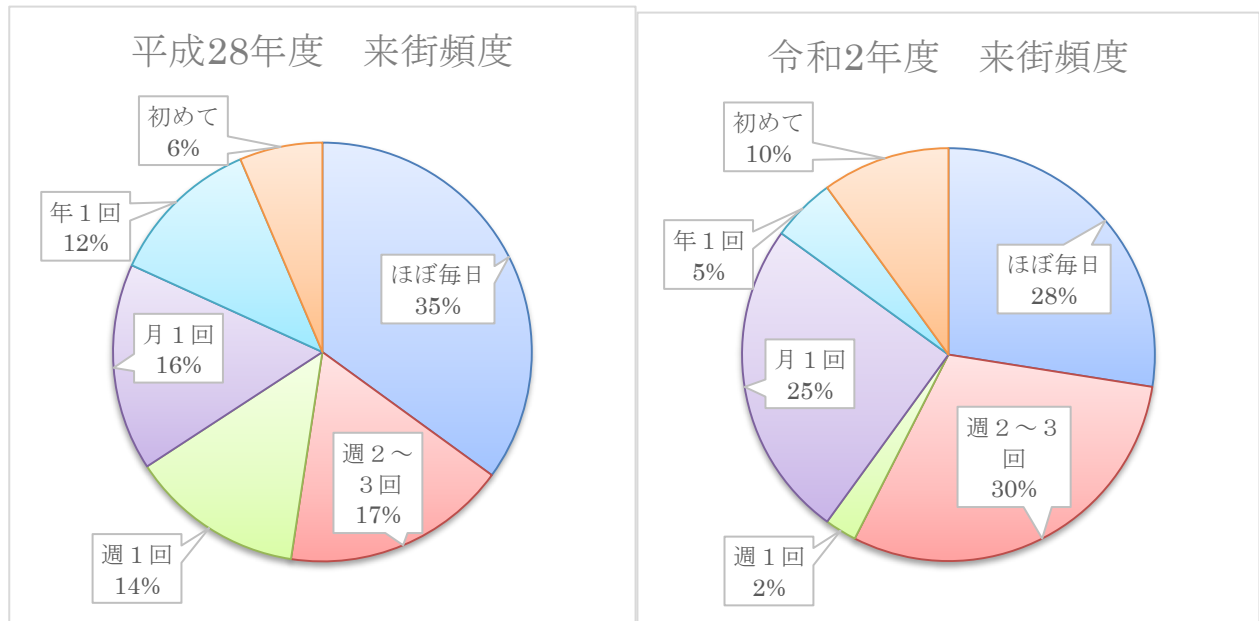
#### ◇第2回調査概要（令和2年度）

調査期間：令和2年10月15日（木）～令和3年3月31日（水）

調査方法：唐津中央商店街にある任意の3店舗にて来店者へのアンケート調査を実施

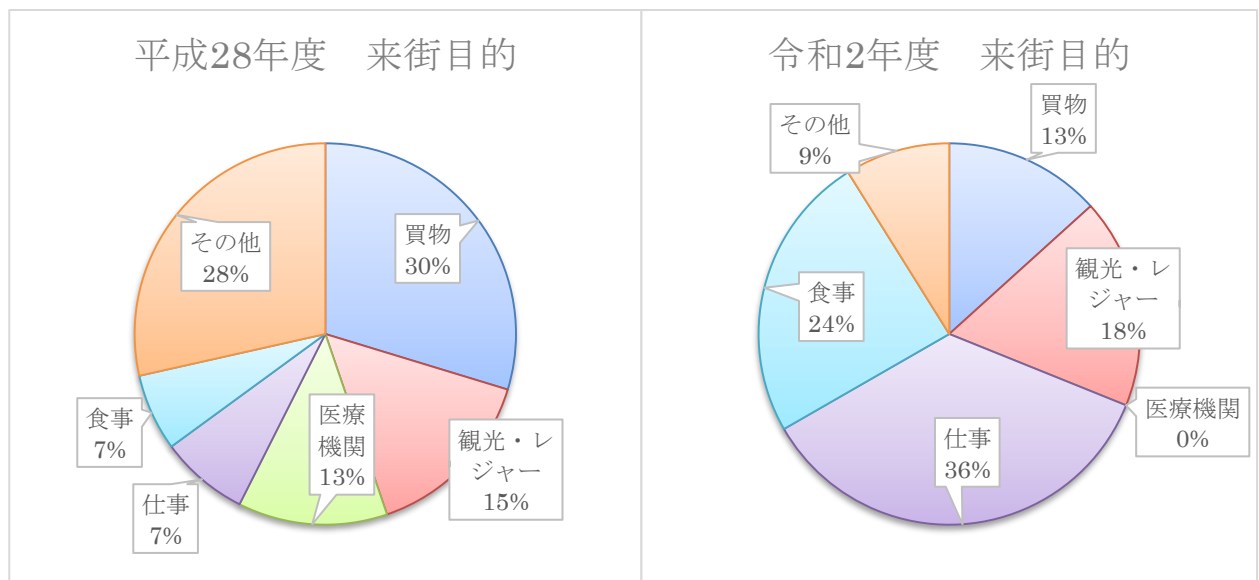
回答総数：40件

① 中心市街地への来街頻度の変化



来街頻度は週2~3回、月1回程度との回答が増加し、ほぼ毎日という回答が減少していることが伺える。

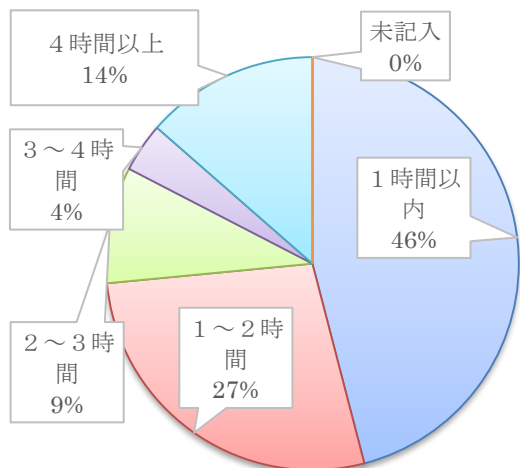
② 中心市街地への来街目的の変化



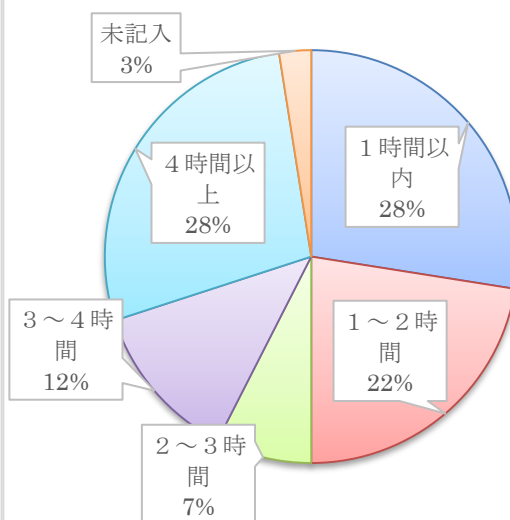
来街目的としては、買物、医療機関が減少し、観光・レジャー、仕事、食事が増加していることから、市民の日常生活を支える場というよりも、観光客を迎える場、ビジネスの場としての役割が強くなったと考えられる。

③ 中心市街地での滞在時間の変化

平成28年度 滞在時間

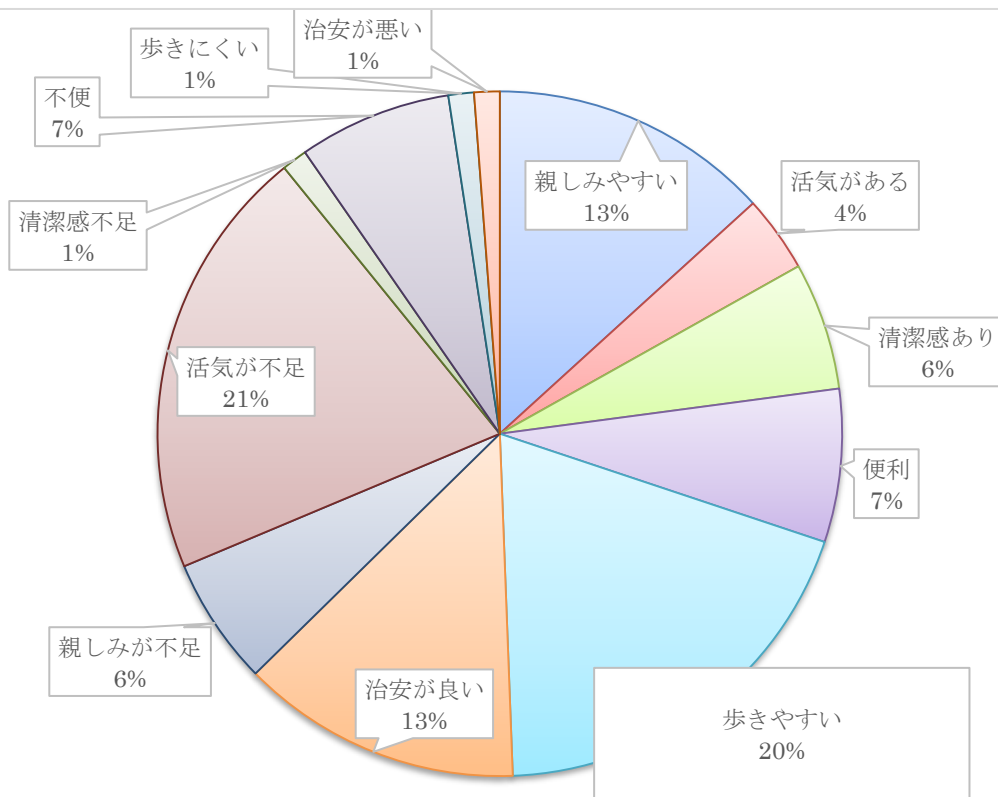


令和2年度 滞在時間



滞在時間は長時間化が進行し、観光・ビジネス目的での来街という変化を反映しているものと思われる。

#### ④中心市街地に対するイメージ



イメージに関しては好意的なイメージの回答が過半数を超え、概ね良い印象を持たれ

ていた。中でも、「歩きやすい」との回答は、呉服町ファサード整備事業の効果も少なからずあるものと考えられる。しかしながら項目ごとで見ると、最も割合が高かった回答は「活気が不足」という回答であったため、活気ある中心市街地づくりが今後の課題と思われる。

## 6. 今後の取組

新計画の終了を受けて協議会構成員に対し行ったアンケート調査においては、組織の機能として、「部会と協議会と共に良く機能していた」との回答が約40%、「協議会は形式的なものだったが部会は良く機能していた」と答えた割合が約30%で、部会と協議会活動が機能していたとの回答が約70%となり大半を占めた。協議会の存続については、「計画が終了したので解散して良い」と答えた構成員は23%にとどまり、協議会の継続、もしくはそれに代わる中心市街地の課題検討の会議体が必要と答えた人が約70%を占め、地域の課題検討と合意形成を行う場の必要性を再認識させられる結果となった。新計画は終了したが、今年度も空き店舗チャレンジ誘致事業、商工業イベント助成事業、観光サイン整備事業等を継続しており、計画期間終了後も引き続き中心市街地の活性化に資する取組を実施する。協議会の存続や、会議体の必要性については今後も議論したい。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わいあふれる魅力 ある商業の創出	空き店舗率	22.77% (H26)	16.69% (R2)	18.65%	R2.10	B2
	来街者満足度	19.43% (H27)	32.53% (R2)	22.5%	R3.1	B2
訪れたい魅力 ある観光の創出	中活エリア観光 施設入り込み客数	314,130 人 (H26)	339,551 人 (R2)	144,952 人	R3.3	C

<達成状況の分類>

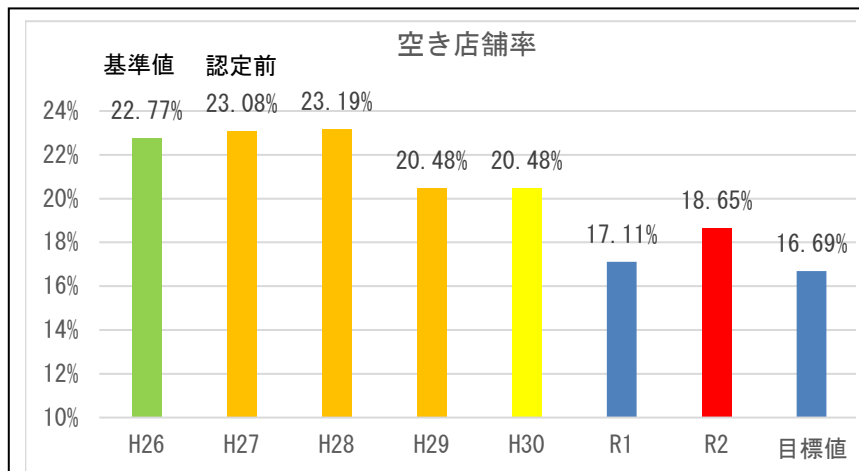
A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

### 2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画P67～P69参照

#### ●調査結果と分析



年	(単位：%)
H26	22.77%
	(基準年値)
H28	23.19%
H29	20.48%
H30	20.48%
R1	17.11%
R2	18.65%
目標値	16.69%

※調査方法：目視による空き店舗確認

※調査月：令和2年10月

※調査主体：佐賀県

※調査対象：唐津中央商店街（協同組合呉服町商店街、協同組合京町商店街、中町商店街協同組合、刀町振興会）

#### <分析内容>

空き店舗率については、基準年値であるH26の22.77%から最新値では18.65%まで減少し、基準値より改善した。後述する空き店舗チャレンジ誘致事業等により、令和元年度までは順調に減少していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり令和2年度においては、上昇へ転じたと思われる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 空き店舗チャレンジ誘致事業（唐津市）

事業実施期間	平成23年度～（実施中）
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店の際、店舗改装費及び広告宣伝費の補助と併せて、商工会議所との連携による経営サポート等の支援による店舗誘致事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	（目標値）— （最新値）— ※複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していないが、5年間にわたって計17件の空き店への出店者支援を実施した。 （達成状況）未達成
達成した（出来なかった）理由	空き店舗への出店は、空き店舗率の減少に直結し令和元年度までは順調に減少していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり令和2年度に上昇へ転じたと思われる。
計画終了後の状況及び事業効果	出店後も商工会議所の経営相談等のサポートが行われている。空き店舗の改善に加え、今までにない業種の出店も行われており、多様なサービスの提供により、来街者の満足度の向上にも寄与している。
事業の今後について	今後も事業を継続することで空き店舗率の改善が期待される。店舗改装費の補助以外にも、出店後の経営を持続可能にするためのサポートを商工会議所・地元金融機関と協力しながら行っていく。

②. 新天町パティオ街区再開発事業（いきいき唐津株式会社）

事業実施期間	平成28年度～令和元年度（完了） [認定基本計画：平成28年度～平成30年度]
事業概要	唐津中央商店街内の新天町パティオ街区に滞在型・交流施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣の認定（経済産業省）（平成28年度～平成30年度） [認定基本計画：平成29年度～平成30年度] ②地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成30年度） ③中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（平成30年度） ④特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産



	<p>の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>⑤地域文化資源活用空間創出事業費補助金（経済産業省）（平成28年度～平成30年度）</p> <p>[認定基本計画：平成29年度～平成30年度]</p>
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	<p>（目標値）—</p> <p>（最新値）—</p> <p>※当事業により、空き店舗率は4.91%減少との積算を行っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。</p> <p>○参考【施設利用者数】</p> <p>令和元年11月～令和2年10月 45,000人</p> <p>（達成状況）未達成</p>
<b>達成した（出来なかった）理由</b>	<p>建設にあたって従前の空き店舗が解体され、新しい店舗が開業したことで空き店舗率は減少した。しかし、新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、中心市街地全体では空き店舗率は上昇したものと考えられる。</p>
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	<p>開業直後から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年5月には1か月間休業を余儀なくされたが、商店街の来街者の増加にも寄与したといえる。開業後の中央商店街の通行量は、開業前の平成30年（平日3,534人、休日3,251人）に対して、令和2年（平日4,475人、休日4,815人）と増加した。</p>
<b>事業の今後について</b>	<p>近隣店舗や唐津の観光スポット、唐津焼窯元体験特集などについても情報発信をしており、取り上げられた飲食店やお土産店などからは来店者数が増えたとの声がある。中心市街地への来街動機の形成、滞在時間や消費金額、回遊性の向上を図っていく。</p>

### ③. 呉服町商店街ファサード整備事業（呉服町商店街組合員）

<b>事業実施期間</b>	<p>平成27年度～平成29年度（完了）</p> <p>[認定基本計画：平成27年度～]</p>
<b>事業概要</b>	<p>呉服町商店街が策定した景観まちづくりのガイドラインに基づき各店舗が店舗前面部分の改装を行い、その改装費の補助を行う。</p>
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	<p>国の支援措置なし</p>
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	<p>（目標値）—</p> <p>（最新値）—</p> <p>※当事業により、空き店舗率は6.70%減少との積算を行</p>

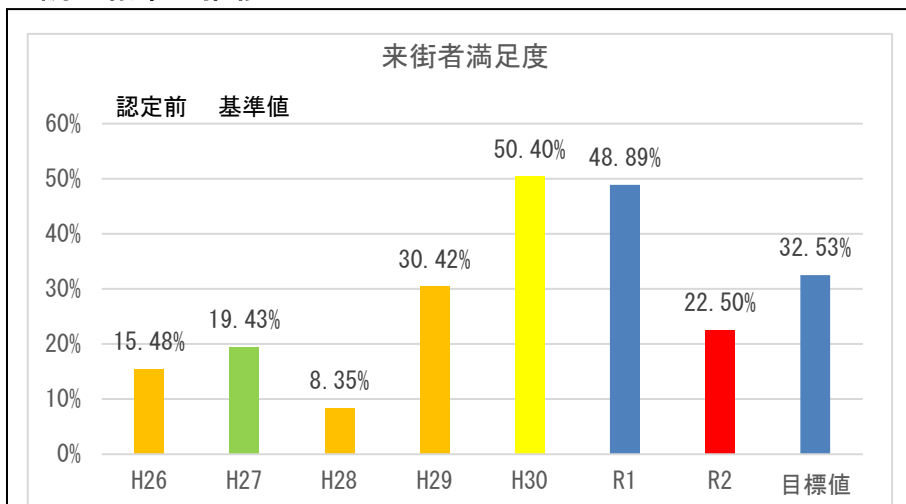
	<p>っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。</p> <p>○参考 48店舗中、工事を希望した29店舗が工事完了。 (達成状況) 未達成</p>
<b>達成した(出来なかった)理由</b>	<p>事業を行う際に呉服町商店街が策定した「呉服町商店街景観ガイドライン」を事業完了後も引き続き運用を行っており、既存店舗の改修や、上記の新天町パティオ街区再開発事業においても、同ガイドラインを満たすよう審査・調整が行われ、統一した景観が形成されたが、新規出店の際にも同ガイドラインを満たす必要があることで、出店のハードルが上がっているとも捉えられる。</p>
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	<p>ファサード整備をきっかけに、呉服町商店街組合は、独自に「五福の縁結び市」という毎月第一日曜日に呉服町商店街販促イベント開催に取り組むようになった。その結果、商店街のイメージ改善、満足度向上、誘客に大きく寄与したと考えられる。商店街の来街者満足度も、ファサード工事の完了前後で大きく向上した。</p>
<b>事業の今後について</b>	<p>本事業をきっかけとして、商店街へのイベント誘致の可能性や外国人観光客の増加を各商店が実感しており、商店街における観光満足度向上と消費喚起の取り組みを行っていく。</p>

**●今後の対策**

令和元年度までは目標値へ向かって減少傾向が続いていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、中心市街地全体では空き店舗率は上昇したものと考えられる。しかし今後は、新型コロナウイルス感染拡大により閉店を余儀なくされ空き店舗となった物件に、新規開業を目指す新たな経営者が現れ、新陳代謝が促される可能性があると考えられる。旧来の店舗との競争や協同により中心市街地全体としての賑わいを取り戻すべく、アフターコロナを見据えた創業支援や、既存の事業者が持続的に経営できる環境を作るため、創業・経営相談窓口の設置や商工会議所等の専門機関と連携を図りながら、やる気のある起業家や繁盛店作りを支援していく。

「来街者満足度」※目標設定の考え方基本計画P70～P79参照

●調査結果の推移



年	(単位：%)
H27	19.43% (基準年値)
H28	8.35%
H29	30.42%
H30	50.40%
R1	48.89%
R2	22.50%
R2	32.53% (目標値)

※調査月：令和3年1月

※調査主体：唐津市

※調査対象：中心市街地商店街への来街者

<分析内容>

来街者満足度は、基準年値であるH27の19.43%から最新値では22.50%まで向上し、基準値より改善した。後述する各事業等により、平成30年度・令和元年度までは目標値を超えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等の中止により令和2年度は低下へ転じたと思われる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗チャレンジ誘致事業（唐津市）【再掲】

事業実施期間	平成23年度～（実施中）
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店の際、店舗改装費及び広告宣伝費の補助と併せて、商工会議所との連携による経営サポート等の支援による店舗誘致事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	（目標値）— （最新値）— ※複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していないが、5年間にわたって計17件の空き店への出店者支援を実施した。 （達成状況）未達成
達成した（出来なかった）理由	令和元年度時点で目標は達成していたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業や時短営業などを行う店舗も多く満足度が低下したものと考えられる。
計画終了後の状	出店後も商工会議所の経営相談等のサポートが行われてい

<b>況及び事業効果</b>	る。空き店舗の改善に加え、今までにない業種の出店も行われており、多様なサービスの提供により、来街者の満足度の向上に寄与している。
<b>事業の今後について</b>	今後も事業を継続することで空き店舗率の改善が期待される。店舗改装費の補助以外にも、出店後の経営を持続可能にするためのサポートを商工会議所・地元金融機関と協力しながら行っていく。

## ②. 新天町パティオ街区再開発事業（いきいき唐津株式会社）【再掲】

<b>事業実施期間</b>	平成28年度～令和元年度（完了） [認定基本計画：平成28年度～平成30年度]
<b>事業概要</b>	唐津中央商店街内の新天町パティオ街区に滞在型・交流施設を整備する。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	①特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣の認定（経済産業省）（平成28年度～平成30年度） [認定基本計画：平成29年度～平成30年度] ②地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成30年度） ③中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（平成30年度） ④特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（平成30年度） ⑤地域文化資源活用空間創出事業費補助金（経済産業省）（平成28年度～平成30年度） [認定基本計画：平成29年度～平成30年度]
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ※当事業により、満足度は5.6%増加との積算を行っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。 ○参考【施設利用者数】 令和元年11月～令和2年10月 45,000人 （達成状況）未達成
<b>達成した（出来なかった）理由</b>	令和元年度時点で目標は達成していたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業や時短営業などを行う店舗も多く満足度が低下したものと考えられる。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	開業直後から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年5月には1か月間休業を余儀なくされたが、商店街の来

	街者の増加にも寄与したといえる。開業後の中央商店街の通行量は、開業前の平成30年（平日3,534人、休日3,251人）に対して、令和2年（平日4,475人、休日4,815人）と増加した。
<b>事業の今後について</b>	近隣店舗や唐津の観光スポット、唐津焼窯元体験特集などについても情報発信をしており、取り上げられた飲食店やお土産店などからは来店者数が増えたとの声がある。中心市街地への来街動機の形成、滞在時間や消費金額、回遊性の向上を図っていく。

### ③. 呉服町商店街ファサード整備事業（呉服町商店街組合員）【再掲】

<b>事業実施期間</b>	平成27年度～平成29年度（完了） [認定基本計画：平成27年度～]
<b>事業概要</b>	呉服町商店街が策定した景観まちづくりのガイドラインに基づき各店舗が店舗前面部分の改装を行い、その改装費の補助を行う。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	国の支援措置なし
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ※当事業により、満足度は5.3%増加との積算を行っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。 ○参考 48店舗中、工事を希望した29店舗が工事完了。 （達成状況）未達成
<b>達成した（出来なかった）理由</b>	令和元年度時点で目標は達成していたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業や時短営業などを行う店舗も多く満足度が低下したものと考えられる。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	ファサード整備をきっかけに、呉服町商店街組合は、独自に「五福の縁結び市」という毎月第一日曜日に呉服町商店街販促イベント開催に取り組むようになった。その結果、商店街のイメージ改善、満足度向上、誘客に大きく寄与したと考えられる。商店街の来街者満足度も、ファサード工事の完了前後で大きく向上した。
<b>事業の今後について</b>	本事業をきっかけとして、商店街へのイベント誘致の可能性や外国人観光客の増加を各商店が実感しており、商店街における観光満足度向上と消費喚起の取り組みを検討する。

### ④. 低床バス導入事業（昭和自動車株式会社）

<b>事業実施期間</b>	平成27年度～（実施中）
---------------	--------------

<b>事業概要</b>	車両に乗りにくいという意見が多いことを受け、交通弱者が気軽にバスを使って中心市街地へ足を運べるよう低床バスを導入するもの。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	地域公共交通確保維持改善事業費補助金（国土交通省）（平成28年度～）
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ○参考 令和2年度までに25台の低床バスを導入。 （達成状況）未達成
<b>達成した（出来なかった）理由</b>	令和元年度時点で目標は達成していたものの、新型コロナウイルス感染症に伴う休業や時短営業などを行う店舗も多く満足度が低下したものと考えられる。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	低床バス導入によって車両の昇降性は改善された。
<b>事業の今後について</b>	引き続き、ベビーカー利用者や高齢者の外出機会を増やすため、昭和自動車株式会社と連携をとりながら、低床バス導入のみならず中心市街地のバリアフリー化を進めていく。

#### ⑤. バスの乗り方教室の実施（昭和自動車株式会社）

<b>事業実施期間</b>	平成27年度～（実施中）
<b>事業概要</b>	バスの乗り方がわからないという若年層・高齢者にバスを身近に感じてもらうためバスの乗り方・マナー啓発を行うことによりバス利用者を増やす。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	改正地域公共交通活性化再生法（国土交通省）（平成28年度～）
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ※当事業により、満足度は1.4%増加との積算を行っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。 ○参考 平成27年度以降事業実施実績なし （達成状況）未達成
<b>達成した（出来なかった）理由</b>	令和元年度時点で目標は達成していたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業や時短営業などを行う店舗も多く満足度が低下したものと考えられる。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	例年、各小学校に教室開催についての案内を行っているところであるが、平成27年度を最後に要望が無かったため事業が実施できなかった。
<b>事業の今後について</b>	公共交通の重要性は理解できるが、要望が少なかった結果を踏まえ、バスを身近に感じてもらうための事業を再検討する。

## ⑥. 子育て支援拠点事業（唐津市）

事業実施期間	平成28年度（完了）
事業概要	地域の身近なところで気軽に親子の交流や子育て相談が受けられる場所を作り、子育てしやすい環境の充実に努める。
国の支援措置名及び支援期間	合併特例債（総務省）（平成28年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	（目標値）— （最新値）— ※当事業により、満足度は0.8%増加との積算を行っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。 ○参考 平成29年度の開設以降、1年間で約700～1100件の子育て相談実績で推移している。 （達成状況）未達成
達成した（出来なかった）理由	令和元年度時点で目標は達成していたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業や時短営業などを行う店舗も多く満足度が低下したものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	平成29年度4月から「唐津市子育て情報センター」を開設し、子育て家庭のニーズに合わせて、必要な支援を選択し利用できるような情報の提供や相談・支援を行っている。
事業の今後について	運営主体であるNPO法人子育て支援情報センターと連携を図りながら、各種イベントや病後児保育のサポート等を行い、子育て親子の交流の場を提供し、保護者相互の交流や情報交換の促進を図っていく。

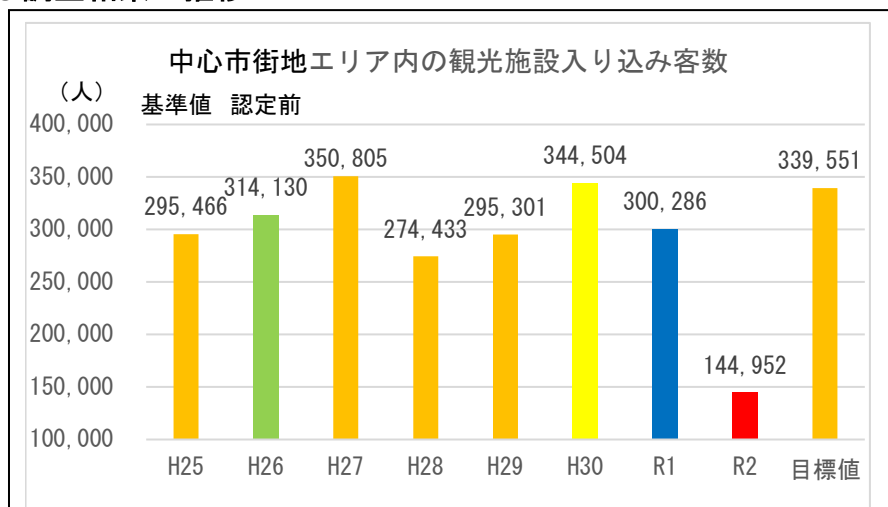
### ●今後の対策

来街者満足度については平成30年度・令和元年度と2年連続で目標値に達していたが、令和2年度にはおおよそ半減という結果となった。新型コロナウイルス感染拡大によりそもそも中心市街地への来街者が大幅に減少し、イベント等も中止や延期を余儀なくされ賑わいづくりや交流の創出も出来ず、厳しい最終年度となった。しかし、基準となる平成27年度の値と比較すると増加しており、様々な事業を行った結果、順調に満足度は向上していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり満足度の低下につながったと考えられる。今後も民間事業者等と連携を図りながら事業を継続し満足度の向上に繋げていく。

## 「中心市街地エリア内の観光施設入り込み客数」

※目標設定の考え方基本計画 P 7 9 ~ P 8 5 参照

### ●調査結果の推移



年	(単位:人)
H26	314,130 人 (基準年値)
H28	274,433 人
H29	295,301 人
H30	344,504 人
R1	300,286 人
R2	144,952 人
R2	339,551 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内に立地する観光施設7施設の入場者数の合計

※調査月：平成31年4月1日～令和3年3月31日

※調査主体：唐津市

※調査対象：観光施設入場者数

### <分析内容>

中心市街地エリア内の観光施設入り込み客数は、基準年値であるH26の314,130人から最新値では144,952人まで減少し、基準値に及ばなかった。後述する各事業等により、平成30年度時点で目標の水準まで達していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の賑わいや経済を支えてきた催事が軒並み中止となり、令和2年度は大幅に減少へ転じたと思われる。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 呉服町商店街ファサード整備事業（呉服町商店街組合員）【再掲】

事業実施期間	平成27年度～平成29年度（完了） [認定基本計画：平成27年度～]
事業概要	呉服町商店街が策定した景観まちづくりのガイドラインに基づき各店舗が店舗前面部分の改装を行い、その改装費の補助を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	(目標値) — (最新値) — ※当事業により、満足度は5.3%増加との積算を行っているが、複数の事業を合わせた目標値を算定しているため、当事業による個別の目標値は算定していない。



	○参考 48店舗中、工事を希望した29店舗が工事完了。 (達成状況) 未達成
<b>達成した(出来なかった)理由</b>	平成30年度時点で目標の水準まで達していたものの、新型コロナウイルス感染拡大により観光客が減少したため。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	同事業を行う際に呉服町商店街が策定した「呉服町商店街景観ガイドライン」を事業完了後も引き続き運用を行っており、既存店舗の改修や、上記の新天町パティオ街区再開発事業においても、同ガイドラインを満たすよう審査・調整が行われ、統一した景観が形成されつつある。季節のイベントや唐津焼関連のイベントが催されるなど一定の賑わいの創出につながっている。
<b>事業の今後について</b>	本事業をきっかけとして、商店街へのイベント誘致の可能性や外国人観光客の増加を各商店が実感しており、商店街における観光満足度向上と消費喚起の取り組みを検討する。

## ②. 城内地区・曳山通り景観まちづくり事業（唐津市）

<b>事業実施期間</b>	平成28年度（完了）
<b>事業概要</b>	城内地区・曳山通りならではの佇まいを守り、つくり、育て、賑わいの創出につなぐため、景観まちづくり条例の改正を行うもの。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	国の支援措置なし
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ○参考 建物新築・改修等に伴う届出 137件 補助金の交付 14件 （達成状況）未達成
<b>達成した(出来なかった)理由</b>	平成30年度時点で目標の水準まで達していたものの、新型コロナウイルス感染拡大により観光客が減少したため。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	平成29年3月唐津市景観まちづくり条例を改正。平成29年8月に唐津市景観まちづくり推進事業補助金がスタートし、外装工事など費用負担の大きい建設費に対しては補助金の交付を行うことで、城内・曳山通りにふさわしい街並みを形成し、市民や来街者が足を運びたくなるような景観形成が進み、賑わいづくりに寄与している。
<b>事業の今後について</b>	景観まちづくり条例は順調に運用されており、今後も、城内・曳山通りにふさわしい景観形成を図るため、市民への周知を行っていき、これまで受け継がれてきた景観を、次の世代へしっかりと引き継ぐことを目指す。

### ③. 旧大島邸復原整備（唐津市）

<b>事業実施期間</b>	平成25年度～平成28年度（完了）
<b>事業概要</b>	城内地区に残っていた旧大島邸を文化交流の結節点とすることを目的に、主屋、茶庭、茶室などを復元し、見学施設や貸館による活用を図り、中心市街地における市民や観光客の交流拠点を整備した。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（唐津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成25年～平成28年度）
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ○参考 年度毎の入り込み客数 平成28年度 事業実施中 平成29年度 15,825人 平成30年度 10,125人 令和元年度 7,573人 令和2年度 3,075人 合計入込客数 36,598人 （達成状況）未達成
<b>達成した（出来なかった）理由</b>	平成30年度時点で目標の水準まで達していたものの、新型コロナウイルス感染拡大により観光客が減少したため。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	平成29年4月23日に開館し、入場のみならず貸館による利用があった。貸館の利用としては、茶会や講演会、展示会のほか、食事会や集会などの様々な目的で利用された。
<b>事業の今後について</b>	今後散策ルートの設定やイベントの誘致等を行うことで、中心市街地の周遊性の向上と文化交流の結節点としてしての機能強化を図っていく。

### ④. 南城内駐車場整備事業（唐津市）

<b>事業実施期間</b>	平成28年度（完了）
<b>事業概要</b>	旧大島邸と一体的に整備を行い、旧大島邸利用者のみならず、城内観光の拠点とするべく整備を行った。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（唐津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成28年度）
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ○参考 年度毎の入り込み台数 平成28年度 事業実施中 平成29年度 約28,000台 平成30年度 約34,000台 令和元年度 約38,000台

	令和2年度 約36,000台 合計入込客数 約136,000台 (達成状況) 未達成
<b>達成した(出来なかった)理由</b>	平成30年度時点で目標の水準まで達していたものの、新型コロナウイルス感染拡大により観光客が減少したため。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	旧大島邸と同じく、平成29年4月23日にオープンし、利便性の向上による城内来訪者の増加に繋がったものと思われる。
<b>事業の今後について</b>	整備によって休日の観光客のみならず、平日の通勤利用も増えている。周辺施設である旧大島邸や唐津市民会館、曳山展示場の主要な駐車場のため施設の利用促進を図り、駐車場の利用増につなげていく。

#### ⑤. 唐津城天守閣改修等事業（唐津市）

<b>事業実施期間</b>	平成25年度～平成29年度（完了）
<b>事業概要</b>	中心市街地のランドマークとなっている唐津城天守閣の維持及び観光客の入館の増加を図るために、天守閣の耐震補強及び空調設備の新設や資料の保存、活用を図るための展示ケース等の改修を実施する。
<b>国の支援措置名及び支援期間</b>	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（唐津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成26年～平成29年度）
<b>事業目標値・最新値及び達成状況</b>	（目標値）— （最新値）— ○参考 年度毎の入り込み客数 平成28年度 78,469人（事業実施中） 平成29年度 105,115人（事業実施中） 平成30年度 148,516人 令和元年度 141,125人 令和2年度 69,157人 合計入込客数 542,382人 (達成状況) 未達成 (達成状況) 未達成
<b>達成した(出来なかった)理由</b>	平成30年度時点で目標の水準まで達していたものの、新型コロナウイルス感染拡大により観光客が減少したため。
<b>計画終了後の状況及び事業効果</b>	平成29年7月にリニューアルオープンし展示内容を一新、甲冑や肥前刀、豊臣秀吉の朱印状などの資料を展示している。唐津市を代表するシンボルとして、主要な観光施設となっている。
<b>事業の今後について</b>	唐津市の主要な観光施設としての機能を果たしている。今後、定期的な展示物の入れ替えを行い、展示説明についても英語

	対応などの充実を図っていき、来場者の満足度向上を図っていく。
--	--------------------------------

### ●今後の対策

地域の賑わいや経済を支えてきた催事（唐津くんち、唐津やきもん祭り、からつ土曜夜市、かきまつり、クルーズ船の寄港など）が軒並み中止となっており、新型コロナウイルス感染症の影響のなかった平成30年度の中心市街地エリア観光施設入り込み客数に対し、令和2年度は、ほぼ半減している。新しい生活様式に合わせた観光サービスの展開や、域内の観光客をターゲットとしたマイクロツーリズム、新型コロナウイルス感染症の終息後を見据えた観光戦略の策定など、各関係者と協議を行いながら観光戦略の再構築等を行っていく。